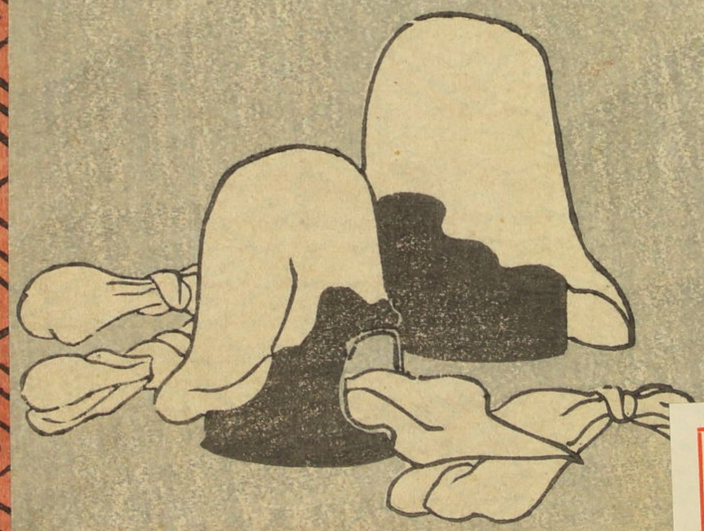
Gôkan:(No. 25)
Oshie-Gusa.
Book 9---12
Part 2

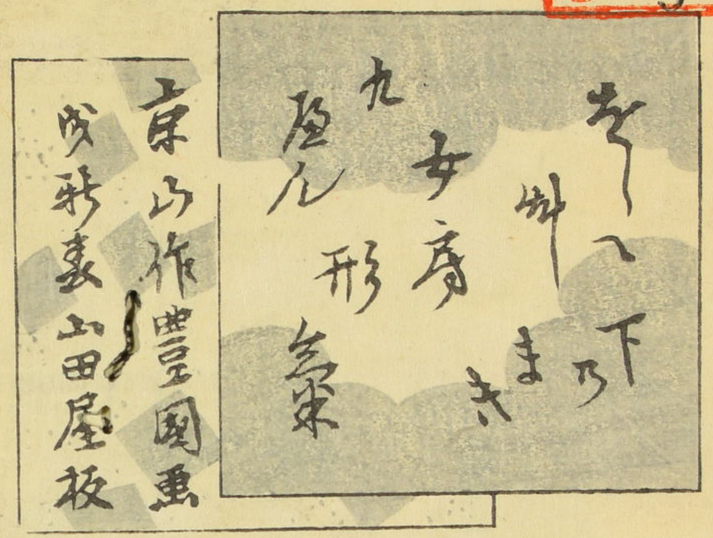
おしえ草
女房訓
九編九上
京山作
豊国画
彫工傳吉
山田孫梓



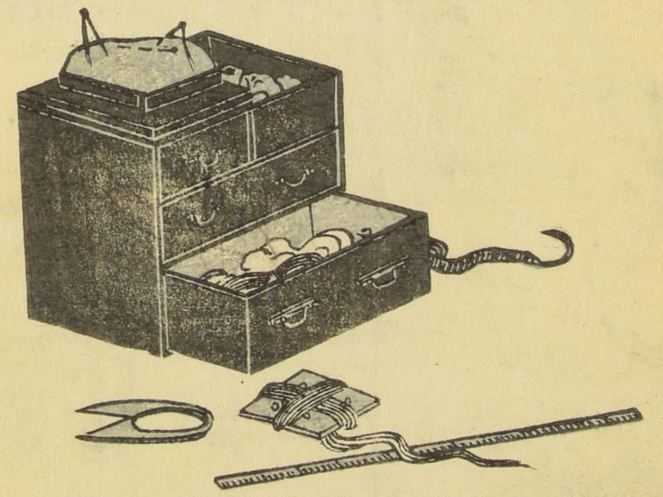
へ 13
3703
9

女房形気
九篇下之巻
東山作
豊国画
山田屋板
雨ハ
笠ヲ
女房形気
九篇上之巻

門へ13
3703
巻 9



京山作豊国画
彫彩表山田屋板



門人国安画

おのもいとづゝふ犬馬の齪をかさねてまとう九〻の表ふ
遇ひぬ崇順反南の巷にまぎられて脛はかそたをとと
系ハ大城食ふ衣をかさねて寒をつゝ
足ざる和あ　身の程より旅てゝ
貫の催促見も辭しがゝく彼も棄ぐてまとも
女房形氣の九編を作りてかれ催促よりの

嘉永二年　乙酉之春稿本　時年八十一
同晩秋上梓庚戌　新版　山東翁京山

女房形気九編初編

▼あの　ひあとうりいるいろとのうまと
おひよの　ふんびとろくむけりう

二段

おひよのあそびくかんぐしゃ「コレさ
ケイがあのひまをすゆいあちよめぐ
だんなへつげことあのひまをそのりけい
らつぐやぎおぐらでぐ太とかのそ
らくそやあとへまくたきのおさんがたく
あんだ「ふまりありたくあんあけの
こきてよありことそひろしかぐこを
るぐこのあかあのふさのうへふあき
たるをあちよぐこてあやとれい
ひてのしやとそつひりへさこるを
ことこてそそぶふこそとうまこそのけ
あちよりやかのあをきこいせあかと
あのひまこまとどるゆをやスも
人の命とちめるりけをゆて
きぎをのとひるたとあもあれべ
きいこうこいきろれをそのまふ
まそこあきまこぐ今ありんが
ありつがだんなへ
あらせこうもあれ
きせん●あこの

あく玉下女　おひよの

㊂つばさとのこるうだんなへ
ふりとをそこうちとりつり
にてをうくむりありてオふあぐ
えあるふりをあまえつげことをまこ
とあるひありいとでうりるぐくまる
のあうこまりとつこをあうふ
るをりつけねびのちのらひ
ぐき●おひよの「それく
それまうだんなの
るをふ「そそさ
くふきこうな
ふくぐこの
●おひよの「こうで
あいつをくーあげ
●かこの「おこうち
のあきくろきろ
ぬう「こんさ
▲けあくろくろと
ゆとんけあるあちち
ををおこのとキスへ
己のこ己の月己
の白ふうまれ
あをへびの

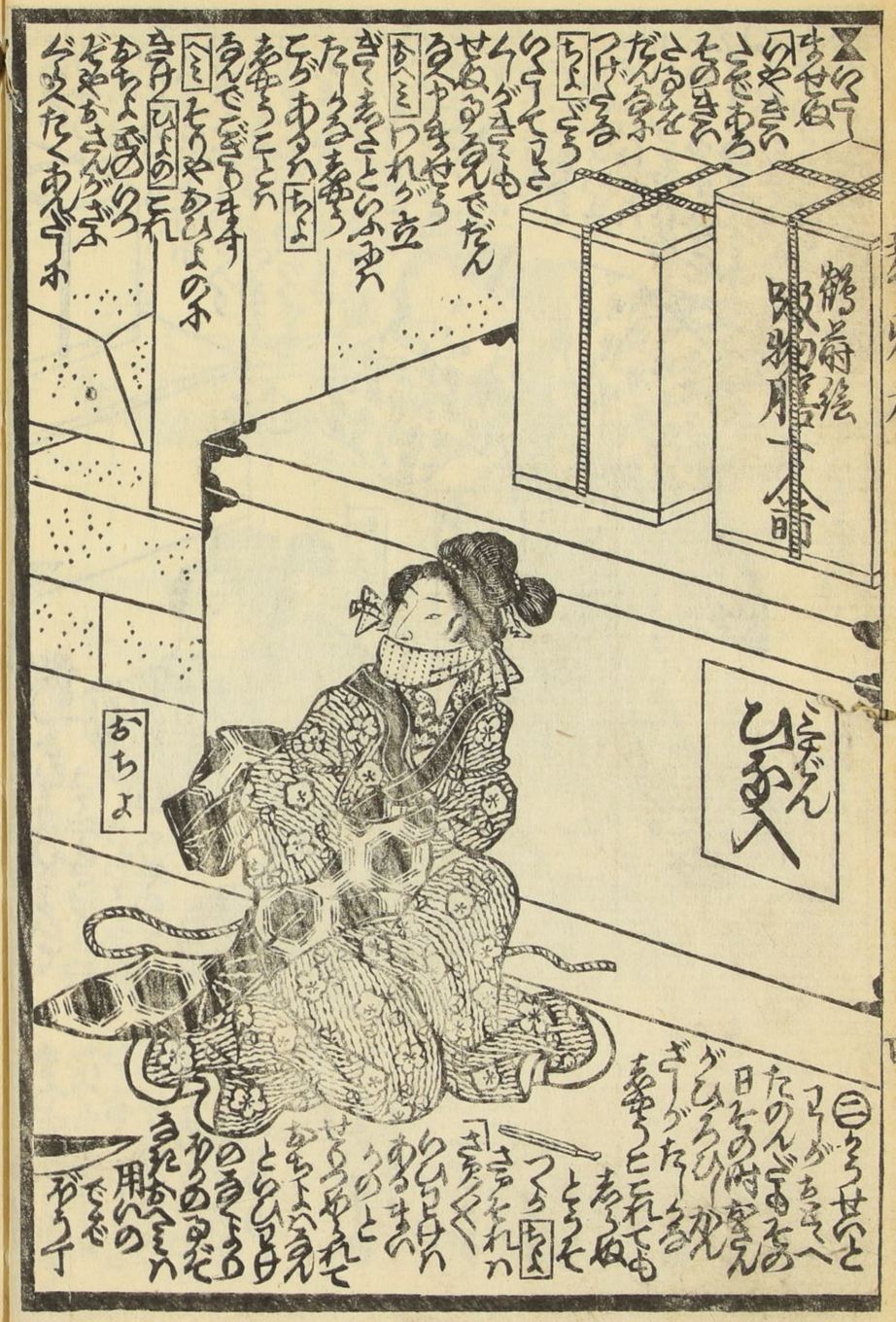
「これふちびひあ
子まこぐすこ
ふりとだんなぐち
ちくまんで
あければ中
きへうくる
ぐこうえ
●あこよの
「コあうこき
中ゆ人
ちろくる
くうえ
太もの
だーぐ
ゑくぎを
まきこさこと
せあでぐき
アませう
●「コふかく
ふこいあちよ
めうこれあふ
あわせてくく
ちこうこさせこ
うこだんなへ㊀

おこのあくこあ
やまこのちおへを

あまうをうけて
ふれとまりく
大やき
もちうう
とりスぶけ
きこざこ己の
七ゑんよこの
ゑあかう
ゑれとおこの
とこあうこふ
な名ゆふ
さーあこるえ
やうおひと
つけのくとる者
アこうそこらーくい
ゆゑまこ
おこのとこ
ゆこ史
ゆこけふ
よこのち
おあのらくく大
やきこのち
「つぎこ」

三段
ゆきのちよ
おへそ
おひよ

四段
おちよ
おひよ


勝前絵
眼物屋十人前
ひんぜんへ
おちよ

ごぞろもせぬ
おへこ 小ちくを
こうもきさうぐんを
のこうもきちうろ
「それのへんぶふあこへこへ
びうくりあひよのとかりを
こあるはせて へこ のれてい
ろうぬ一ぐのーとんぐをまるる
まれをこてこもけまば
あひよのうるづき「おそその
あこうへとうるさる おへこ 分
ゐぐとこもるあの井ど
おひよの うるぐくあふと
鬼おちくん十五るふあも
あるぬぬまぐぬきそう
まそうあすこうくきあそこさ
たぐうるあひくまやくうるき
つぐこのこれのかれたもふふり
かるくるるぐんのけへるふあきき
のいるぐるれあるまけふこへ
けるを鬼ぬあるくるおへこへこ
よりとこぐもうけぎこうくぐうろ
ここひきこまこあれのうあこ
さんぐめんるさんまーとぐこまこ 一

うるくるときこ
さんとこ
うちうけてあるこう
あぐるちようこうく
まこあのあを
ゐるこのあこ
ど をうち
たるきぐんこう
のこるとて
「おうこ
さんくく
と 三

おへここあこう
まこあのあを
あぐるちようこうく
ゐるこのあこ
ど をうち
たるきぐんこう
のこるとて
「おうこ
さんくく
と 三

四よぐ
そられ
ひよふ
ゐりゐ
ゐるをこめ
おそうを
ぐやーらを
ちくう
かりをのう
こ

たんるぐあるまで
こうかさまるこ
まれまをぬこて今
まきますとゐをぐ
をこちちようをこせが
おひよのそこぐうう
ぬぬぐびのさる
ぐうるるくうう
とうぐあとへあう
をあうー
けり

五段

その二

おらく

たいこの二さ

そのニ

あらくいかどにはかけてあちらへとられてあとをもあの「これ」べんべんよりきてそのうちぼうせんぬけねばいこまちょいるりの水水をぐろぐろむひおたくきあとそぐきりけれいこさいかすふさー

二あの人とさいろいろさいるこくあんーてつとあなたまそんりやれ「あらく」あのにつふつとあなたまんいく」とのらやうちょいなのはつとあるもつとこさもいろいろいるこどをそそふすうろおたこてどせどれへ「とく」つとあいらやうちょ「あいらやそどぐんもちくこん今のあきげんくくくち上戸のうでまりつ「やいけあまるのけをいるてきろせろれいやとろうえさこれくくきりよ十五年いるぐんナどあふあこ用りやあもそのみやのまてたこいれこをとこのつあさむいらひうけまくらぐいんとそナーもどまりであとのこいるの

よろぬ「よく」ケあちーてきこのっ「ちよ」あの「よく」らろるーどやるちよ
ぐくそそこるーどやどぎ
ア ませぬゆけねへ
ろろぬそのつけけと
あろまーとかろ
けれどこきろころ
ゆそこれをきて
「やどぎ」のあるろ
あけこれへぬまくの
あくこまろこけ今ものくけっやろ
人くろるれまれたのそのけいあちょとちく
ころいらことぬとしいさせくあちょるるもかあくと
さろくえーてからくこまりつとあ寿公のるも
るくあくさせやどぎりのかるやへもあれへあちよ
とてへへあれどぎちろくもすやくけそもぬへ
「よく」それもそのきーやこれあちょかけあちへかろっ
けのさいいたのつけへそれもあのーもいろまでひとろどん
あられどそれ由系山こさどのをむこふーてあ
そへけるやそくそれかーくへけーどあかえさいせん
こさどだそつりーどやろりどそのかれどろへ由系あのーろと
きそどそけ人ろろ五れけそも必でうとあな公そのかで
みせこひどーあのくとけーとそかぎうけ下女のひとりあつふ
ろうふまるそのの円五年へ由りのまあのーろねもあけてやどろ一

なくをこまりて
ひろひあげ
もーひてどあろ
どとまろーれと
ちとこやへこの
むときくもろし
うけいちでそをあけと
母ーどやちーよんちーどの
ちくまろうもやどーとあ
せどこれくろーとよ
きうくんでひを
るふあるかん
ろろひとひを
くろとろくえと
すると二さん
だきこまり
「ちーどのあふ
きまどろ
つけが
ねどえが
さどること
こどめ
けり

七月
ろくそあくい
二さとのひ
あの甘いあくる
日はそひはの
せげんをつま
きとりてあちよ
をこせあちよへ
五年とのつる
サ七までわれ
うるやそくゆそ
えんとひきうえ
いかどゆそつれ
そくあそえうけ
おちよ二ちのゆ
ダ十五の子ども
つまりそのように
ゆけいで赤ふ
さりつきけんさ
川のつこうり月
とをえんとう
けるふかとふあ
ろくそ色
あとい
ちよ

かまぐと小やとう女の
ろ一ぶたせられてあやうた
あををあつとまつ
あいさえまちをさえ
えちうてあるをて
まをあるまアあるふ
まいいまは月のぶ
かとうはまぐ十五ろ六ろ
ろるりけりあやわと
アまをてあるまいぶ
りくをあやもうと
ひやのりてりのとりよう
人のまを今のはりふる
ろうるこれまでのうきあり
たびうあるとかりしく
すのびれがあるあんか
ようりくてうりまする
ダてその中たひも
れ女いかぶりとやう
あれをふくるうぶひまぶ
るくれをりるひるもあり
をくいるるこれまはこそ
たのりいたのこをりうり
おをうあもものこやのあ

京山作
豊国画
あてよ
あてよ

女房形気九編下巻
八段

がいたの
こまぶ年
丑ゆめ
おてん

九段
あてい

あてい
あてい

てらとろう平六
あてい

二さ
十四

とうをろ平六
おてん
ちんさげてかくれてらまちつたれ
のみちのまんなかたれも
たる女あり
きりつぢ切りふとる
るとてちのあるふ
てせがかちみで
きろくまんぞろるひめ
ひめ
ぞまつ
ぞき
ぞんと
ぞろ
ぞ

とろーどきこぶりおりん
ぞきだるおけら
ひめのてのきざもの
ぞぞねがのぶりく
てちちんかるさ
てよくくれがおるぞー
きふつとあるのら紀
らうゆ老る羽内かう四
弟がつまるりけれがをりふ
きぞぞるうぞもあれがぞすてざ
くかえふあしるれうんぢよの
とーやくふれらぞれあてれ
ふきうげぞぞふによを「あての
ぞのく「あーあの「ふがつのうろ平六どの
「それの「コーがかネぞぞえまずう
「ヤアおまえいてうろ平六どの
ぞろうやとてゆげんとまるを「やれ
きちまえうきまるぞこいよのるうしとの
きぞくよるれーあい者さいあーんその
あーまーとかうられよ「あそ這ヤーも
ぞろうみぞうひとてりきのそただ
ぞちの人のうふたろうろぞ「がん平
ぞのとーゆもんぢぞをうーへれんぞ
ぞんぢかぞーとひとふふぞぞこちち
の人をあーざまふざんげんろ
ありひるのようるるぞのおひとま
ひめへ

おちふちぎる
ゆまく年
こゝいろや方ざ長のん
えんぐるあけら
平六

くらもち平六
ぶ川ちわん
平六

五ざいのこと

やきもち
あべそ

十二段

十三段

十四段

ひろ田小太夫
万ざえもん

(一)
(二)
(三)
(四)
(五)
(六)
(七)
(八)

四人ちそうしたぶさ
ありてつぶとろハちんの
ちたあとうのとうり
ちやたゞ申ハ清へも
ゑひちさうの酒も
こるのむにくふけてもし
奴をとゝのかてのかく
ぞに人をつれて月ゑやへ
ゝうけり

その二

さてあろや女五人あひ
かくとさぶむこうろきも
ちのうろからぎとそなのく
ちたる扇あや仲ゐ
めこせやうけるふやぐそうろ
や女五人扇をもちそらぐ
きさりを仲ゐぐひこきそ
とはいぶるこ「ちのそれぐや
これいあまちとに人さぶ
ちりきこ系ゐこうろまぐ
うひくしたちんぐさうゐちち
たるい方ぐこ系りんが扇ゐり
こまこうそあひくこぐまうり
けべりやぐどもきこりてひき

(二) ちへこぐアんさあそ小のとゑあこ村
ふせんぐこ
をちのりぶ
をまとふ

(三)

(四) つげーとなりひちへこぐ
ちのとゑあころさんとあやらん
今いたきこりぐ母よ
うこまて
とる
ゑそ又
ゑるの
ゐこハ五

万ざこゑ

(六) こゑのめーゞ
「ちこぐりこりるあぐら
ひこうこいをそ子でどぐる

たるこるさみせんゆぐこきう
づき日もこれて肉とうこー
ちのくをーのこきまゑこ入けり
▲さて方ざこゑりもねゑのり
ちどうくあひこうこのちんぐこうきこう
「のあるこきこうこきれこうきこれす
しこう「されがさぐこたの内ぐこちけぐ
かあいこきりぐこをこうここちみ
あもぐこ「ここあうこうこちこうさけ
るこのあみこふつとあこちこうこぐこり
ちこす今の名ハちよちとやまこ
「をこゑ」こあくこりこきこうこ
りのあいこををこるとこきここみけべ
かやもちぐこもかりてこちぐこきこうこ
ちこうくぐこりのこちぐりこきこうこ
おこをこぐやこスあいせこうこんのたゆこをこ
ちこうこんのこ三ちこーこうこやこりこをきこりー
ぬこそ人ちちょこうこ三やきこーこ又ハ
きこあこうこりあげきこりこうこちこちが母
あこうくこうこ人をこをこりこあこちこ人ちあこう
きことこりこーやここりぐこりこりこーこりこやこを
ここうこ三ここうこ「このぐこちこうこ三こあ
こ年れこーこあこうこくこうこれこーここうこちこくこと
あこしるどもこまぐことかこりければ「さこハ(一)

(七) ちよ若

(八) かぐこうこ
きこるこ「このこき
こーこちこ母ふこき
こうこ千おあこちこス
ふのあこのこゑのこゑ
井のちこハふこここここけ
かこちこうこうこのこのこ
らこりこりこうこのこ
のここぐこゑこたゆここのぐここのめ
あこりゆこうこりここうこりこと人今の母ぐ
こりこーこりここうここ

(九)

(十) あこうここのぐこの
だんのここりこりこ
けこうこりこりこりこれこ
きここここきこりこりこ
田小ここここここ
ちこここりこぐここの
こここ
年こりこぐここ
こんの肉千
おこうこ
あここのこ
のこうこ井
のここゆここ
女のこを
ひこりこ令
子こうこここ
ゆこうこりの
あこぐこれこ
こここここ
ここ山やこゆこの
あこりここたのこ
しぐ

庚戌孟春錦橋堂新梓

英雄五大力 四編 万亭應賀作 五編 一陽齋豐國画

葛の葉九重錦 四編 同 作 五編 同 画

頓朝一代記 好古斎作 芳虎画

義經一代記 好古斎作 芳虎画

繪本大平記 同 作 同 画

甲越軍記 同 作 同 画

口中御薬 固齦散 大包代百銅 小包代三十二銅

功能 一ぬけ歯一うき歯一歯ぐき血一血ゆび。耐しゅう能書こうくわうしゅ

賣弘所板元 中橋廣小路 山田屋庄兵衛